

注目記事

◆1・2ページ◆

平成21年度 社会福祉法人誠心会
地域生活相談室 せんとらる主催セミナー

救護施設やしおみ荘
〒972-0161 福島県いわき市遠野町上遠野字堀切27
☎(0246) 89-3333 ㊟(0246) 89-3334

知的障がい者通勤寮 レジデンスなこそ
〒979-0145 福島県いわき市勿来町四沢清水17-1
☎(0246) 78-1336 ㊟(0246) 65-4160

指定相談事業・地域生活相談室せんとらる
〒979-0145 福島県いわき市勿来町四沢清水17-1
☎(0246) 65-5222

知的障がい者更生施設ふじみ更生園
ショートステイほっと
〒972-0252 福島県いわき市遠野町上根本字白坂384
☎(0246) 89-3400 ㊟(0246) 89-3454

虹のかけはし
〒974-8261 福島県いわき市植田町中央3-17 植田ビル2F
☎(0246) 77-2885 ㊟(0246) 77-2886

ワークセンターしおさい
〒971-8161 福島県いわき市小名浜諏訪町1-10
☎(0246) 73-2077 ㊟(0246) 73-2078

手打ちうどん 天眞庵
〒974-8212 福島県いわき市東田町2-11-7
☎(0246) 77-2033

ヘルパーステーションあくていぶ
〒974-8261 福島県いわき市植田町中央3-17 植田ビル3F
☎(0246) 62-8810 ㊟(0246) 62-8810

児童デイサービスチャーむ・日中一時支援事業ウイズ
〒971-8166 福島県いわき市小名浜愛宕上13-23
☎(0246) 73-2033 ㊟(0246) 73-2034

平成21年度 社会福祉法人誠心会 地域生活相談室 せんとらる主催セミナー

平成22年3月6日(土)スバリ
ゾートハワイアンズ「ラピーター」
にて、県内外の施設関係者、行政
関係者、保護者等、180名を超
える参加のもと、当法人地域生活
相談室せんとらるが主催で、今後
制定される予定の「障害者総合福
祉法」をテーマに講演会を開催し
ました。

当法人理事長 松崎有一、共催
者を代表していわき市長 渡辺敬
夫様よりご挨拶がありました。ご
来賓として衆議院議員 吉野正芳
様にはご祝辞を頂きました。多く
の方々を支えられ、この講演会が
無事開催されましたことを、心よ
り感謝申し上げます。この場を借
りて、御礼申し上げます。ありが
とうございました。

＊以下に、講演会内容をご紹介致
します。

演題「障がい福祉のゆくえ」障が
い者総合福祉法について」
厚生労働省 社会・援護局 障害
保健福祉部

障害福祉課長 中島 誠氏
① 今後の障害制度について
○自立支援法は廃止。新制度を障
害者・関係者の意見を聞き検討。
○障害者の地域生活支援・基盤整
備。

政策の方向性は自公政権・民主
党中心の連立政権であれ、強ま
りこそすれ弱まらない。
具体的に、ホップ・ステップ・
ジャンプのジャンプを一気にし
なくしていくように、今からホッ
プ・ステップとして①新体系へ

の移行②グループホーム・ケア
ホーム(住まいの場)の整備③
相談支援体制の充実(障害者の
ニーズを把握、障害者と結びつ
け、ふさわしいサービスかをモ
ニタリング)。不足しがちなサ
ビスの抽出④就労支援の4点
を行う。

新制度のポイント

①制度の谷間を無くす：難病等の
福祉サービスを要する方をどう
考え、難病の範囲をどう確定す
るか。

②応能負担が基本の制度を作る。
③支給決定プロセス：その人の社
会的・環境的な要因を考慮して、
支給決定していくべき。

○事業者本位から利用者本位へ。
○新体系サービスの移行は、障害
者に対する地域生活支援の一
つ。

② 新体系サービスへの移行支援策
経営面は5・1%の報酬改定に
おいて、特に重度者に対する手厚
いサービスをして頂き、各種加算、
移行後の収入保障、従前額保障に
て、移行前の収入を保障。諸々の
経費に対する助成。新体系に移り、
経営感覚を持つて事業運営をする
と、経営的に厳しくなることはな
い。新体系に移行については、都
道府県間に格差がある。

③ 障害者制度改革推進本部
国連障害者権利条約の批准に必
要な国内法体制を整える。その象
徴が障害者差別禁止法。差別の中
の合理的配慮に反するものの議論
をつめる。福祉・社会・雇用・教

育の在り方を含めて議論。改革の
エンジン役として、障害当事者が
過半数十有識者から成る推進会議
を設け、その中で論点を整理し、
意見を開陳し合う。「障害者等が
当たり前に地域で暮らして、地域の
一員として共に生活できる社会を
つくる(民主的マニフェスト・
政策目的)」。可能な限り障害者に
地域で当たり前の生活をしてもら
うための支援策を講じていく。推
進会議の中で、論点として主に
「権利規定を明文化する必要性」、
「地域移行プログラムの法定化と期
限の設定」、「障害者の地域生活のため
の財政負担の強化」、「地域間格
差」の4点が出てくる。今夏、全
般の制度改革の基本的な方針を取
りまとめ、推進本部にあげ、閣議
決定し政府の見解として取りまと
める。

社会福祉法人誠心会 地域生活相談室せんとらる



④ 新体系への移行について
③ 障害の一元化。出遅れていた
精神障害者に対する福祉サビ
スの底上げを図り、重複障害が
増えていく中で、障害の特性に
配慮をしながら、総合的な障害
への対応をできるだけの力を各
事業所に持たせたい。

② 昼夜分離。重度者を無理矢理昼
夜分離するわけではない。
③ 地域移行の促進。障害者の可能
性をより開くために、できる限
り地域で生活していく形にもっ
て行きたいという方向性は当然。
⑤ 施設機能の在り方
○今までの入所施設の機能に加
え、地域に開かれ、地域におけ
る福祉の厚みの中心となる入所
施設(拠点)。
○施設があることで安心して地域
生活を送れ、安心して帰れる意
味でのグループホーム・ケア
ホームのバックアップ(見守り
機能・駆けつけ機能・声掛け機
能)。地域に開かれた資源。地
域にお届けする連絡拠点として
の役割。

○相談支援。その地域にある自分
の施設の資源も含める。
○人材の育成・蓄積という意味で
の、地域に根を張った入所施設。
障害者改革推進会議で、今後展
開されるのは施設解体論。施設・
入所機能といったものを無くす
どころか、減らすわけにもいか
ないという意見があるため、真
剣に議論していく。

○グループホーム・ケアホームの
整備と相談支援事業の充実が柱。
⑥ 地域生活のイメージ
住まいの場がしっかりあり、そ
の住まいに届けられるサービスを
しっかりコーディネートでき、相
談支援体制が充実する。ネット
ワークによって地域が地域福祉の
厚みの中で、この住まいに住む障
害者を24時間365日の安心を保
障していく。退所理由の地域生活
移行は半分。5千人のうち、3分
の1が家庭に復帰をされたが、グ

ループホーム・ケアホームで約50%。地域移行を考える際、グループホーム・ケアホームは、重要な柱の一つ。グループホーム・ケアホームの整備は地域の事情を踏まえて着実に進めていく。

施設から地域移行の一步を踏み出した後、障害者が安心して生活していけるまでの手厚いサポートの部分の地域定着支援。そういうものを総合的にオーガナイズ、コーディネートしていくサービス利用計画を作っていく。それを支えるものとして相談支援と自立支援協議会。公営住宅等、住宅施策との連携の点では、市町村・都道府県においても福祉と住宅部局が連携して行うメニューを用意。国土交通省もモデル事業の予算等々、バリアフリー化をするための補助事業の予算等用意。全障害者に適用可能な制度。

〈7. 相談支援体制〉

広義のケアマネジメントとは、自立支援協議会を含めた形。相談支援業務とは、

①一般相談
②個別に着目をしたサービス利用計画の策定という段階での相談支援サービス

③地域意向・地域定着に向けての相談支援。地域意向・地域定着に向けての相談支援業務は、スキルを蓄積する必要がある。

④一連の流れの中で一つ一つの悩み・相談にのり、一人ひとりの可能性を引き出し、ライフスタイルを支援する中から浮かび上がる地域診断の問題。解決法を持ち寄り、地域診断をし、その地域におけるサービス資源の整備をし、連携を強めるという広い意味の相談。

〈8. 地域相談支援の重要な点〉

①十分な量・質の担保された相談支援専門員の養成。

○都道府県の初任者研修・現任研修(事例を用いたの演習形式)を調査研修事業での評価を踏まえ、研修内容を見直すと同時に、国における研修の在り方等も見直す。ある程度抽出されて、整理されたものをどうサービスに結び付けるかというところから研修が始まり、自身の障害者の何に着眼し、どのようなコミュニケーションをして、どう引き出すのかという、相手からニーズを引き出す研修の自身が弱い。現任研修は、自分達のスキルを高め、悩みを相談し合える絶好の研修の機会。

○サービス利用計画をもっと作るべき。地域生活移行を促進と相談支援専門員のOJTとして、ますます腕が磨かれる。制度上、退所や退院して地域生活に移るとき、集中的に支援が必要な人達や一人暮らしの障害者で家族等の支援がない方、重度者はサービス利用計画の対象であり、市町村においては、その方々をサービス利用計画作成に結び付け、地域生活移行と定着をしっかりと、24時間365日安心を保障。地域移行段階、地域定着段階のところにはサービス利用計画を作ることができる。地域の課題が多くサービス利用計画の策定を下に浮かび上がると、地域自立支援協議会の活動が活性化していく。安易に一般的な相談に対する委託経費を削減されないようにすることが極めて重要。市町村にてサービス利用計画を多く作ること、現制度の下でもできる。

〈9. 工賃倍増計画〉

授産、就労継続事業所間の連携が

図れ、安心して仕事を請け負えられ、仕事を依頼できる。共同受注・発注システムのよう、皆が力を合わせて共通の窓口をすることで、過度に各授産所が背負い込まなくていい、頼んだ側もみんなが力を合わせて作って頂けること、確実と頼んだ数が納入してもらえる。授産という志は大切にしながら、経営感覚を入れていく。工賃倍増が至上目的ではない。経営コンサルタントを派遣するだけでは駄目。

〈10. 報酬〉

障害福祉サービスは、高齢者と比べ職員の処遇水準が低い。報酬改定幅が大きい割に、障害施設職員の処遇アップ度が低い。処遇改善は報酬を含め、次期の報酬改定で検討。

〈11. その他〉

○今回の利用者負担の軽減とは、特別対策・緊急対策に加え、
①入所施設やグループホーム・ケアホームの入居者にも適用
②利用者負担が無料ということ、入所者に対する補足給付の部分は減らされない。
③医療部分は利用者負担が無料にはならない。

《講演会を終えて》

障害者自立支援法が廃止され、今後の新しい制度への期待と不安の中で、講師の中島課長には多様な現場からの意見を踏まえての講話を頂き、障害者総合福祉法についてのより身近に、より深く理解することができました。参加された方々からも多くの質問があり、行政と現場のそれぞれの意見を交わせる機会を設けることができ、大変貴重な時間となりました。この講演を通して、今後の支援の一助にしたいと思います。

財団法人車両競技公益資金記念財団 助成金ありがとうございました。ふじみ更生園

この度、財団法人車両競技公益資金記念財団から補修改善助成事業として2,500万円の助成金をいただき、屋根・外壁塗装及びエアコン設置、施設内全面改修を実施いたしました。この改修工事により、建物の耐用年数の向上はもとより、廊下・居室の壁が木製となったことで施設全体が以前より明るくぬくもりが感じられます。設備面については、自動水栓・自動照明に切り替えたことにより、利用者の拘り行動も少なくなり使用しやすくなりました。

また、従来のボイラー設備老朽化に伴いボイラーを全撤去し、廊下にもエアコンを新設したことで暖効効

果が増し、利用者の方に快適な日常生活を過ごしていただいています。他にも、トイレや居室の一部のバリアフリー化等に伴い、重度高齢化による身体機能低下がみられる利用者にとっても危険性が少なくなり、ますます生活しやすい環境が整備され利用者の皆さんからも喜びの声が聞かれております。

助成いただきました財団法人車両競技公益資金記念財団様に感謝申し上げ、今後も利用者に安全で快適な生活を過ごしていただけるように、より一層サービス提供に努めていきたいと思ひます。



バリアフリーになり、雰囲気も明るくなった室内



自動洗浄式のトイレになり、さらに便利になりました

新年会



やしおみ荘

1月27日(水)「小名浜オーシャンホテル」にて新年会を行いました。

ホテルは、太平洋を目の前に臨み、ゴルフ場も備わっており、宴会を催す大きな会場もあるため、その景観と雰囲気、圧倒されつつも、会場へ向かう皆さんの足取りは軽やかで、自然と笑顔も見られていました。

上遠野施設長から新年の挨拶を頂き、いよいよ新年会の始まりです。会食では次々と和洋の豪華な食事が運ばれてくると、「美味しいね。」と言いながら箸が進んでいました。職員の出し物では、南京玉すだれやマジックで皆さんの目はくぎ付けとなり、続いての生活支援部課長のギターの弾き語りでは、懐かしいメロディーを聴いて利用者と職員も口ずさんでいました。

会場が和んだところで、メインイベントである民謡コンサートが始まりました。

皆さんが楽しみにしていた民謡コンサートでは、幸謡会主宰の大平幸子先生を始め、3名の生徒さんが、福島県を

始めとして東北各県の民謡を、素敵な歌声にて披露して頂きました。また、当日には急遽、各地でご活躍なさっている

尺八の先生・小湊先生に御越し頂き、その素敵な歌声と三味線・尺八の音色に、みなさんも手拍子と共に口ずさんでおり、会場の中は大盛り上がり。みなさんからの熱いアンコールの声にもう一曲披露して頂きました。

終始楽しい雰囲気の中、あっという間に時間は過ぎ、新年会は幕を下ろしました。

新年会が終わっても、みなさんの興奮は冷めず、帰りの道中でも、「楽しかった!」「おもしろかった!」と感想を話しており、満面の笑顔で新年のスタートを切ることができました。笑顔が絶えない1年となりますように。



ふじみ更生園

1月27日(水)ふじみの里交流ホームにて新年会が開かれました。会場は、この日のために皆で協力して作成した折り紙や紙コップの飾りに彩られ、にぎやかな雰囲気の中始まりました。乾杯の挨拶が終るとお待ちかねの会食タイム。鍋や中華おこわなどで身も心も温まると、利用者の方も満

足した表情を見せていました。和やかムードになった所で、利用者の方一人ずつ今年の目標を話しました。作業を頑張るという方、健康に過ごしたいという方それぞれの目標を確認し合いました。クライマックスはカラオケの時間で、ズンドコ節を皆一緒に唄ったり踊ったりして大いに盛り上がりました。楽しい時間はあっという間に過ぎましたが、いっそう交流が深まった一日でした。

虹のかけはし

1月18日(月)2010年初めての行事である新年会が、天真庵にて盛大に開催されました。席に着くと、自慢のうどんや大好きなから揚げ等が次々と運ばれ、素敵な料理に幸せそうな笑顔が見られました。料理を口に運ぶと「美味しい」との言葉が次々に聞かれ、お腹も心も満たされ、特別な時間を過ごす事が出来ました。

会が進み、お楽しみのビンゴゲーム。番号が発表される

につれ、「あった!」等との歓声も上がり、真剣そのもの。番号が揃った人から、今年の抱負を発表しました。「計算が出来る様になりたい」等との意欲的な抱負も沢山聞かれ、利用者の真剣な熱い気持ちに触れる事が出来ました。

さあ、新しい年の始まりです。この日抱いた気持ちを忘れず、日々作業に励んでいこう、そう気持ちを新たにすることが出来た行事でした。一年後、さらに成長した利用者の抱負を聞くのが今からとても楽しみです。

レジデンスなこそ、コーポおかおな、メゾン・ド・あたご、メゾン・ド・ほりきり

1月29日(金)シダックス小名浜店で合同の新年会を行いました。利用者、職員24名が参加しました。新年会を兼ねて、Sさんのコーポおかおなへの入所祝いも行いました。最初に今年の抱負を1人1人話してもらい、その後は大画面で思い思いの歌を思い切り歌いました。カラオケの大きなホールを3時間貸切り、利用者と職員で腕を組んで、大きな声で歌ったり、利用者同士でデュエットしたり、ホールで踊りだす利用者など大いに盛り上がりました。最後に

今年1年頑張る事を全員で誓いました。



天真庵

1月30日(土)天真庵の新年会が、昼食を兼ねて店内で行われました。全員が席に着くと、ジュースで乾杯!新年会が始まりました。利用者の大好きなから揚げや寿司等がテーブルに彩られ、「美味しい」と笑顔を見せていました。

また、食事を取りながら、今年一年の抱負を一人ずつ述べてもらいました。抱負を述べ、利用者みんな新年、気持ちを新たに出来た様です。「また来年もやろうね」と言いながら、お開きとなりました。

今年一年、元気に過ごす事が出来ますように…。

節分



レジデンスなこそ

2月3日(水)夕食終了後、食堂にて災いをもたらす鬼を追い払う豆まきの行事について説明をした後、利用者と職員で豆まきをしました。寄付してもらった落花生とチョコレートを持って、各部屋に「鬼は外！福は内！」と大きな声を出して1年の無病息災を願ってまきました。時々職員を鬼に見立てて落花生を投げる利用者も見られ、大きな笑い声が聞かれました。まいた落花生等は直ぐに利用者に拾われ、皆自分の歳以上落花生とチョコレートを美味しくそうに食べました。

ちゃーむ

2月3日(水)節分の集いを行いました。ちゃーむのお友達みんなでプレイルームに集まり、節分のお話を聞いたり、節分の紙芝居を見たりしました。そこへ突然、子どもたちの前に鬼が現れると、すかさず鬼を囲み「鬼は外！福は内！」の掛け声とともに、一斉に豆を投げつけていました。子どもたちの威勢の良さに鬼は一目散に逃げ去りました。一人ひとりの心の鬼を追い出し、福がいっぱいの一年になるようにお祈りしました。



ふじみ更生園

2月3日(水)豆まきが行われました。数日前より「節分は?」「豆まきは?」などの言葉が園内を飛び交っていたこともあり、食堂に鬼が登場すると歓声があがりました。節分の由来が耳に入った人はわずかなようで、豆まきのことで頭がいっぱいのような様子でした。年男・年女の利用者・職員が居室をまわり豆をまくと、美味しく頬張り味を楽しんでいました。皆さんどんな鬼を追い出したのでしょうか。

ワークセンターしおさい

2月3日(水)しおさいにて、毎年恒例の節分が無事開催されました。何日も前から「鬼のお面準備した?」「鬼来るの?」という言葉が聞かれ、利用者みんながこの日を楽しみにしている様子が伺えました。

「鬼は外！福は内！」の掛け声と共に、元気に豆まきが行われました。全力で豆を投げる人もいれば控えめにそっと豆をまく人、鬼のお面を被り鬼役に徹する人等、それぞれの形で節分を楽しむ事が出来ました。

例年以上に盛り上がったしおさいの豆まき。2010年は、沢山の「福」がしおさいに舞い込む様、また自分達の力で「福」をしおさいに呼び込むよう頑張ろう、そう誓った2月の一日でした。

▶▶▶ 初釜 ～日本の伝統文化・和の心に触れて～ やしおみ荘

1月6日(水)初釜を行いました。当施設では月に一度、お茶サークルの活動を行っています。吉田文子先生のご指



導の下、お茶の作法を学ぶ中で、和の心に触れることのできる活動の時間を、サークルメンバーを始め、利用者の皆さんは楽しみにされています。初釜は、活動の成果が披露できるとあって「ここは腕の見せどころ！」と気合を入れて、この日を迎えました。参加した利用者はいつもと違う雰囲気緊張してしまい、お茶の作法の方法を間違えてしまう方もいらっしゃいました。しかし、先生から作法を教えて頂きながら進めると、いつの間にか緊張も少しずつ和らぎ、余裕も見られてきました。毎年恒例となった年の始めの「初釜」に、皆さん笑顔も見られていました。「いただきます」「ごちそうさまでした」と丁寧に挨拶をすることができ、今年初めの行事を無事に終えることができました。

▶▶▶ カラオケ大会 虹のかけはし

2月11日(木)建国記念日。「この日がカラオケ大会だね」と、普段からカレンダーを見ながら、指折り数えたカラオケ大会が、カラオケまねきねこにて開催されました。午前中は作業に励み、その後外食も兼ねての会となりました。

カラオケルームに移動するや否や直ぐに曲を入れる利用者の姿もあり、この日を心待ちにしていた気持ちが伝わってきました。会が進むにつれ、大盛り上がり。椅子の上に立って思いっきり歌う利用者やタンバリンで合の手を入れる利用者、ダンスをする利用者の姿も見られ、それぞれが思い思いの時間を過ごす事が出来ました。また、「絶対歌わない」と歌う事に躊躇していた利用者も、次第に他利用者とのデュエットをする事も見られ、友情が人の心を動かす瞬間を目の当たりにしました。

少々歌い足りない様子も見られましたが、それは来年のお楽しみ。日頃の作業の疲れを癒すだけでなく、利用者・職員共々交流を深める素敵な会となりました。



▶▶▶ さくら通り未帰省者外出2010 ～海へ～ ふじみ更生園



1月8日(金)利用者10名、職員4名でホテル塩屋崎へと出かけて参りました。窓を開ければ潮風を感じる広い宴会場で新鮮な海の幸に舌鼓を打

ち、みんなお腹いっぱい満足するまで料理を堪能した様子でした。食事の後は、太平洋が一望できる浴場で、日頃の疲れを癒すようにゆっくりと温泉に浸かりました。癒されすぎて身体が湯に浮いてしまう人も…！料理に温泉にと楽しんだ様子で、帰りのバスでは一夢の中へと旅立ってしまいました。

▶▶▶ 大倉保育園との交流会 ～たくさんの笑顔に包まれて～ やしおみ荘

2月23日(火)当荘体育館にて、毎年恒例である大倉保育園の園児の皆さんと交流会が実施されました。47名の園児が来荘し、この日のために用意してくださったお遊戯・歌・手話ソングと多岐にわたり披露してくださり、園児達の可愛い姿と、明るい音楽・リズム感のあるダンスに利用者も笑顔を見せていました。また、演技を観賞されるだけでなく、園児と共にダンスを踊ったり、ゲームを行うなど、利用者自身も心から楽しんでいると、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。

最後に、利用者と園児の皆さんとのプレゼント交換があり、どちらも心のこもった手作りのプレゼントを交換しました。利用者からは、わらじのキーホルダー・花瓶・紙折の白鳥・貼り絵などを、園児の皆さんからも手作りの貼り絵・花カゴが手渡されました。

お別れの際には、「また来るね。」との園児の皆さんの言葉に目を潤ませながら、最後まで見送りをしている利用者の姿も見られました。

大倉保育園の園児の皆さん、先生方、ありがとうございました。来年も来て下さることを楽しみにしています。



▶▶▶ 福島県障害施設合同研修会に参加して ふじみ更生園 渡辺誠二郎 上遠野加代子 近藤愛

今回研修に参加させていただき、現段階での障害者施策の状況を知ることができ、とても勉強になりました。また、障害者権利条約についても、特別な条約ではなく、我々が当たり前に生活している日常に近づくことが目的である事を知り、身近に感じられる事が出来ました。また、地域

移行が進められていますが、地域でのサポート体制が不十分である事、地域では断片的な支援でなく、利用者の生活をトータルにサポート出来るようなシステム作りをしていかなければならないと感じました。

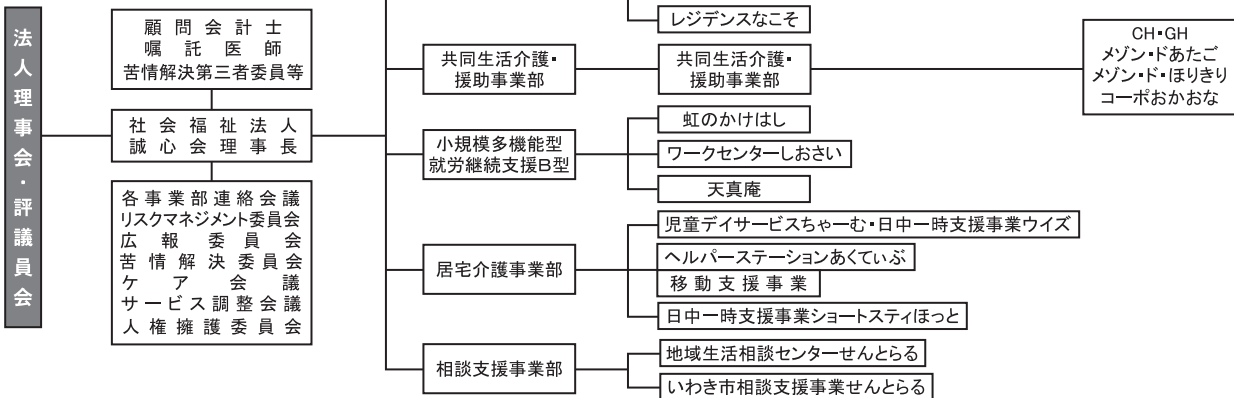
平成21年度
苦情件数
(法人)

	やしおみ	ふじみ	ほっと	虹かけ	しおさい	天真庵	あくていぶ	ちゃーむ	レジデンス	せんとらる
食 事	2				1					
その他のケア	1									
看 護	3	1								
医 療										
生 活				1					1	
その他のプログラム	18			5	1	2		1		
相談・連絡		2	1	2						
環 境	5			1						
職 員	7	3	1	1			3	1	2	
利用者間	93	5	1		2				3	
制 度				1				2		
その他	4			3		1				
合 計	133	11	3	14	4	3	3	4	6	
話し合いで解決	129	7	2	13	1		1	2	2	
改善で解決	4	4	1	1	3	2	2	2	3	
未解決						1			1	

苦情解決第三者委員会
の様子



平成22年度 社会福祉法人 誠心会「組織表」



人 事 異 動

氏 名	新	氏 名	新
安島 智江	通所事業部就労継続支援事業B型主任	藤田 裕介	入所事業部ふじみ更生園生活支援部ケースワーカー
鈴木 美智	居宅介護事業部ヘルパーステーションあくていぶ副主任サービス提供責任者兼管理者	佐川ちづる	入所事業部やしおみ荘生活支援部ケースワーカー
上遠野加代子	入所事業部ふじみ更生園生活支援部主任ケースワーカー	佐藤 秀世	入所事業部やしおみ荘生活支援部臨時ケースワーカー
永井 千尋	通所事業部就労継続支援事業B型（しおさい）ケースワーカー	小松美智子	通所事業部就労継続支援事業B型（虹のかけはし）臨時ケースワーカー
森 清香	入所事業部やしおみ荘生活支援部ケースワーカー	矢口 榮子	入所事業部ふじみ更生園給食課継続雇用職員

ご寄付をいただいた皆様

平成22年1月～平成22年3月

佐藤理容所 様
誠心会協力会 様

ご厚情に感謝いたします

編 集 後 記

彩り鮮やかな春が訪れ、新年度が始まりました。時の流れと共に『始まる』事だけでなく『始める』という事は、期待や不安はもちろん、勇気や熱い気持ちも要すると思います。今日という日は、一日しかありません。『君はベストを尽くしたか？』新しい明日を『始める』にあたって、そう自分に問いながら、日々を大切にしていきたいものですね。

これからの予定

施設合同

5月
◎合同ふれあい交流会 1日(土)
◎植田歩行者天国 5日(水)

やしおみ荘

4月
◎お花見 14日(水)
5月
◎ウォーキング
6月
◎市民総ぐるみ運動
◎ビデオ鑑賞会
◎街頭花植え

ふじみ更生園

4月
◎お花見
5月
◎保護者との懇談会
◎連休一時帰省
◎体育大会参加
6月
◎防災訓練
◎市民総ぐるみ運動

虹のかけはし

4月
◎お花見 9日(金)
5月
◎磐城高校演奏会
4日(火)

◎介護フェア

16日(日)

6月
◎ハートフルなこそ
フリーマーケット

ワークセンターしおさい

4月
◎お花見
5月
◎磐城高校演奏会
4日(火)・5日(水)

6月
◎ボウリング大会

レジデンス・GH/CH合同

4月
◎お花見 17日(土)

5月
◎体育大会参加
6月
◎市民総ぐるみ運動

デイサービスチャーむ

4月
◎お花見（未定）
5月
◎子どもの日の集い

